

発見！ 弥生集落

1. 弥生時代の始まり

日本列島において水田で稲作が始められた時代を弥生時代といいます。考古学では、文字のない弥生時代の年代を知るために、当時文明国だった中国の漢（前漢）という国から輸入された青銅鏡に着目しました。文字が使われ、年号もあった漢では、鏡がいつ頃つくられたのかが大体わかっているからです。

鏡の出土量は限られていますが、一緒に出土した土器をその年代にあてはめることで、鏡の出土しない時期や地域の年代決定を補って、弥生時代を紀元前 5 世紀から 3 世紀前半の約 750 年としました。

近年、炭化物の分析による「放射性炭素年代測定法」で、土器にこびりついた吹き零れの炭化物の年代を科学的に測定し、土器の使われた年代を決定する方法が行われています。この結果、弥生時代開始の年代は、紀元前 10 世紀前半まで遡るとする説が出され、当館でもこの年代を採用しています。

2. 弥生時代の集落

弥生時代の一般的な住居は縄文時代に引き続き竪穴式住居で、20～30 m²の広さに 5～6 人ほどが生活していたと考えられています。これらの住居数軒で集落を形成する 경우가ほとんどでした。

弥生時代の新しい要素として環濠集落が挙げられます。これは地域の拠点的な集落と考えられ、幅 3m、深さ 1m前後の濠を巡らす集落です。特に中期以降には旧国単位で 1～2 箇所の環濠集落が存在したと考えられており、その広さは 10 万m²をこえるものもあります。ここに住む人々は農民だけでなく、金属器や石器の製作に専門的にあたった人たちも含まれていたと見られ、大阪府の池上曾根遺跡などでは千人ほどの人々が暮らしていたと推定されています。また、佐賀県の吉野ヶ里遺跡には環濠内にさらに別の環濠で区切られた空間があり、そこに大型の住居が作られるなど、首長層の存在や身分の格差などがあつたことがわかっています。

八代市内では新八代駅周辺の島田遺跡・用七遺跡・上日置女夫木遺跡・西片百田遺跡で弥生時代前期から古墳時代前期の住居跡が 140 軒ほど見つかっています。中心となるのは弥生時代後期の集落で、113 軒以上の竪穴住居跡がみつかっています。



用七遺跡航空写真

4. 弥生時代の八代



夜臼式土器 破片（鐘楼堂遺跡出土）

八代で最も古い弥生時代の遺物は、鐘楼堂遺跡（井上町）で見つかった夜臼式土器の甕の破片です。

夜臼式土器は北部九州を中心に使われた最も古い弥生土器の一つで、弥生時代が始まって間もなく、弥生文化が八代に伝わったことを示す資料といえます。ただし、この土器の時期の集落などは見つかっていません。

八代で最も古い集落は弥生時代前期（紀元前 8 世紀～紀元前 4 世紀前半）のもので、島田遺跡（島田町）で 9 軒の住居跡が見つかっています。隣接する用七遺跡（長田町）では弥生時代中期（紀元前 4 世紀後半～紀元前 1 世紀）の住居跡が 5 軒見つかっています。井上町や長田町でもこの時期の土器が多く採集されています。また、用七遺跡で青銅製鉈せいどうせいやりがんなが出土し、上日置女夫木遺跡で小銅鐸せうどうせいはつが出土するなど、この時期の集落の繁栄ぶりがわかります。

弥生時代後期（1 世紀～3 世紀前半）になると、上日置女夫木遺跡・用七遺跡・西片百田遺跡にしかたひゃくたで、合計 113 軒を超える住居跡が見つかっており、大規模な集落が形成されていたと考えられます。

また、球磨川の南岸にある、下堀切遺跡しもほりきりいせきでは弥生時代後期の溝が検出され、その中から土器や木器が出土しました。この遺跡で住居跡は見つかっていませんが、検出された溝の上部はかなり削られており、浅い住居跡は削られてしまい、深い溝の底の部分だけが残ったのではないかと指摘されています。溝は集落を囲む環濠かんごうだった可能性があります。

球磨川南岸では縄文時代の遺物は知られているものの、弥生時代の遺物は下堀切遺跡でしか見つかっていません。弥生時代中期以前、この地域にはあまり人は住んでおらず、弥生時代後期になって利用が増えたのではないかと考えられています。こうした弥生後期における生活域の拡大は、県内の他の地域でも見られます。

3. 小銅鐸

小銅鐸は銅鐸形の小型青銅製品せいどうせいひんです。

この小銅鐸は高さ 5.3cm、下端部の径 3.2cm 舌は長さ 5.5cm、重量は約 35 g で、小銅鐸の中でも小さいものです。内側には多数の傷があり、実際に鳴らして使ったと考えられます。

小銅鐸の出土例は全国で約 50 例、この内、舌を伴った状態で出土したものは 5 例です。熊本県内唯一の例であり、国内で最南端の出土例です。

この発見は用七遺跡での青銅製鉈せいどうせいやりがんなの発見とともに当時の八代に拠点的な集落があったことを示すものとして注目されています。



小銅鐸（上日置女夫木遺跡出土）